

どんぐり山行通信 物語山

第62号

2011年4月16日(土)
晴れ
参加者 17名

ものがたりやま(1019m)



桜の咲いているサンスポーツランドをあとに先月行けなかった物語山を目指す。金銀財宝が埋蔵されているという伝説を信じて、見つけたとき持ち帰れるように大きめのザックを背負っているメンバーもいる。欲深な人だ。林道を歩き始める



と間もなくごろごろ石になり小一時間で分岐を左に曲がる。勾配が急になり喘ぎ喘ぎ登る。長袖を脱いでTシャツになる。まだ樹に葉っぱがついていないから見通しはよい。西峰と南峰



のコルに出る。予定通り西峰に向う。山頂からは北面に妙義、左奥に裏妙義、もっと奥に雪を抱いた浅間がうっすらと浮かぶ。右手には荒船が横たわっている。冬のすっきりとした表情とは違って暖かくなった春の空はうっすらと霞んで見える。もと来た道に戻り南峰を目指す。強い風が吹き抜け



て体が飛ばされそうになる。風の通り道なのだろうか。特異な格好のメンバ岩を見ながら山頂にたどり着く。周りの山容はわかるが、自分の登る山の格好はいつもはっきりしない。自分の顔を自分で見ることができないのとおなじことなのか。おにぎりを食べ終わるとサクサクと凍った柚子シャーベットをごちそうになる。山でデザートとは実にしゃれている。山頂付近はアカヤシオの植生地と聞いたがまだ咲いていない。今年は寒さで遅いのだ。きぶしという黄色の花実がぶらさがった木が近くに、崖の向こうにはヤシオツツジがちょっとだけ顔をのぞかせ、カタクリもひっそりと風に揺れている。もうじきいろいろな花が咲き誇るのだろう。



いったんバスに戻って空身で阿唱念の滝へ行く。枯葉の道は結構歩きでがある。滝は水が枯れてほんの少し流れているだけ。氷がまだ残っている。帰りのパーキングエリアで皆リッチにガトラスクを買っている。それを横目に貧しい俺は昔ながらの蒟蒻をおみやげに買う。

